

<参考資料>

■プロジェクトの背景

宮島は、その霊験あらたかな姿から、神が宿る島として、古くから信仰の対象とされてきました。

宮島の歴史は、今から約1400年前の、推古天皇即位元(593)年、厳島神社の創建とともに始まったとされています。

今日まで、人々の神を斎祀る心、崇め慈しむ心が、宮島を大切に、守り伝えてきたのです。

そうした日々の営みの証のひとつとして、平成8(1996)年12月には、厳島神社と背後の原始林が世界共通の財産として世界文化遺産に登録されました。

世界遺産登録の意義は、この遺産を継承し、人類全体が遺産への相互理解を深めることで、平和に貢献することにあります。

本市の役割は、この世界の宝を守り、創造する未来に引き継ぎ、この取組を全世界に発信することにあると思っています。

そうした宮島の魅力を求心力として、また、観光のグローバル化などにより、国際観光地として、コロナ禍前の令和元(2019)年には、460万人の来島者を迎えましたが、観光客の激増によって、オーバーツーリズムといった声が聞かれるようになり、地域にもたらす影響が懸念され始めています。

また、地球温暖化による環境変化や、コロナ禍による生活様式の変化など、観光の在り方そのものが大きく変化していると感じています。

■「宮島まちづくり基本構想」の位置付け

戦後間もなく5,000人を超えた島の人口の継続的な減少とそれに相反する観光客の激増、観光のグローバル化とそれに伴う様々な影響、さらに、地球温暖化による環境の変化など、1400年という歴史のなかで、幾度も大きな転換期がありました。私たちは、この大きな変化に適応した宮島のまちづくりを進めることをめざし、令和2年3月には、「神をいつきまつる島づくり」と題した「宮島まちづくり基本構想」を策定しました。この構想は、宮島の過去と未来をつなげる「宮島100年の大計」として、宮島の「あるべき姿」の継承と「ありたい姿」の創造の2つの理念を示した、持続可能な観光地域としてのまちづくりを進める上での道標となるものです。

■全世界発信の機会

令和5年5月に開催されるG7広島サミット、また、令和7年の大阪・関西万博の機会には、制作したロゴや動画を活用して、先人から受け継がれてきた宮島の普遍的価値や魅力を、全世界に向けて発信してまいります。

■広島県廿日市市について

広島県の西部に位置し、大別して沿岸部の廿日市・大野地域、島しょ部の宮島地域、内陸部の佐伯地域、山間部の吉和地域の4地域から成ります。総面積は489.48km²で約86%が山林で占められています。広島湾沿岸（瀬戸内海沿岸部）から西中国山地に至る変化に富んだ拡がりを持ち、自然環境に恵まれた、まさに日本の縮図とも言えるまちです。